

公的医療機関2025プラン

2018年9月



独立行政法人 国立病院機構

西埼玉中央病院

Nishisaitama-Chuo National Hospital

国立病院機構理念

私たち国立病院機構は

国民一人ひとりの健康と我が国の医療の向上のために
たゆまぬ意識改革を行い、健全な経営のもとに
患者の目線に立って懇切丁寧に医療を提供し
質の高い臨床研究、教育研修の推進につとめます

○基本理念

病む人に心の通う
質の高い医療をめざします

○基本方針

～基本理念実現のために～

1. 職員は常に研鑽に励み、安全で、より良い医療（高度な医療）の提供につとめます
2. 全ての患者さんの医療を受ける権利を尊重し、心のこもった支援をめざします
3. 周辺の医療機関と連携・協力し、継続的に安定した効率の良い医療をめざします

基本情報

所在地	埼玉県所沢市若狭2丁目1671番
所管保健所	狭山保健所
沿革	1973年4月、国立所沢病院と国立豊岡病院が現在地で統合して発足
医師数	常勤医 47名（2018年4月1日現在）
許可病床数	病床種別 一般325床 病床機能別 高度急性期29床、急性期296床
標榜診療科 (21診療科)	内科、代謝・内分泌内科、呼吸器内科、精神科、神経内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、歯科、麻酔科、リハビリテーション科、病理診断科

国立病院・療養所の再編成・合理化の基本方針の改定(1999年3月)により当院は、専門医療施設として位置づけられ、がん、成育医療、内分泌・代謝及びエイズの機能を政策医療として行っています。

また、5疾病5事業のうち、がん・脳卒中・急性心梗塞・糖尿病・救急医療・周産期医療・小児医療を行っています。

基本情報

看護基準	7対1看護 看護師数190名
診療機能	<ul style="list-style-type: none">▪ 地域周産期母子医療センター（1998.2～）※ NICU 3床 再開（2018.7～）▪ 地域医療支援病院（2012.7～）▪ 所沢地区病院群輪番制病院（1980.4～）▪ 小児科救急医療病院群輪番制病院（2000.7～）▪ DPC病院（2009.7～）▪ 所沢市心筋梗塞ネットワーク（2009.6～）
看護師養成所	1974年4月開設 ▪ 3年課程・総定員120名(各学年40名)

地域での役割

(1) 救急医療

1980年4月から所沢地区病院群輪番制に参加し第二次救急医療に担っており、救急患者の受入を積極的に取り組んでいます。

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
救急患者数（人）	5,791	7,523	7,568
救急車受入数（台）	1,539	2,042	1,966

(2) 小児医療（小児救急）

2000年7月から所沢市、狭山市及び入間市を圏域とした輪番制による第二次救急医療を担っており、救急患者数は増加しています。

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
救急患者数（人）	2,095	3,349	3,810

地域での役割

(3) 地域医療支援

地域医療支援を2012年7月に取得し、地域の中核的な役割を担っており、紹介数、逆紹介数は増加しています。

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
登録医数（件）	133	179	207
紹介数（件）	4,442	4,750	5,248
紹介率（％）	66.3	67.6	71
逆紹介数（件）	3,811	4,150	4,815
逆紹介率（％）	56.9	59	65.4

地域において今後に担うべき役割（2025年に向けて）

1. 周産期医療・小児(救急医療)

民間では体制の整備、経験、または不採算とされることからアプローチが困難な分野である周産期医療、小児救急についても使命と捉え積極的に取り組んでおり、地域医療構想にも合致しているため他の病床転化より優先度が高いと思っています。

また、2018年7月にNICUを一部再開し地域周産期母子医療センターとしての機能を今後、拡充していく予定です。

2. 地域支援

埼玉県西部地区においては、高度急性期を担う埼玉医科大学国際医療センター(高度急性期700床)、特定機能病院である防衛医科大学校病院(高度急性期15床、急性期512床)が存在しており、当院はその後方医療と地域医療支援の中核を担っています。また、地域医療支援病院として提携する医療機関も増加し、紹介件数も増加し続けており、中核としての役割を十分に担っていることから現在の役割を維持します。

3. 高齢者に対する医療

西部保健医療圏では75歳以上の後期高齢者の人口が増加する予想であり、高齢化に伴った患者が増加すると考えられ、特に呼吸器内科、泌尿器科、整形外科においても年齢層が高いため、今後、診療体制の強化を図る予定です。